

今回はJSPE のGOD mother の鹿野さんから原稿をいただきました。

「転職は夢実現のステップアップ」

事務局 鹿野憲子

私の職業人生を振りかえってみると、転職のオンパレードでした。研究生活に夢をいだいた社会人生活の第一歩は、東京都立農事試験場から始まりました。試験と研究に熱中する毎日をご過ごしましたが、やがて、多くの研究者がそうであるように、海外との“研究格差”が知りたくなり外国行きを計画し、大使館での情報収集を試みるも、渡米も渡欧もそう簡単でないことがわかりました。

<転職で夢叶いペンシルベニア>

チャンスの糸口は、思いがけないところから見つかりました。学会で出会った先生の勧めで、今度は民間企業の研究所に就職。海外での研修制度があるということが、転職の決め手となったのです。渡米のチャンスを夢見て、機会を待ち続けました。ある時のことです。来日した某外国企業の会長に会う機会がありました。弾む会話のなかで問われるまま米国行きを希望しましたら、彼が米国での下宿先や銀行の保証人になってくれること、そのうえ、1年間の企業研修も約束してくれたのです。夢見て3年、いつかは叶うものと信じ続けてきた私の夢は、やっと実現の運びとなりました。

当時、渡航には外貨持出金制限があり、1ドル350円の時代ですから手持ちのドルはわずかでした。幸にも研修先で給料がいただけましたので、週36ドルの下宿代を払っても日常生活は十分でした。ペンシルベニア州ウエストグローブは小さな町でしたので、日本人は私一人。「東洋の女の子が田舎に来た」というだけでニュースになりました。地元の新聞が取り上げ掲載してくれたお陰で、レストランでも大いに歓待、スーパー・マーケットでも特別サービスを受けました。

<第2の研修先はクリーブランド>



私のプログラムはさらに進化します。ペンシルベニア州を離れ、オハイオ州での新たな研修に入ることになったのです。くしくも米国の独立記念日が、旅立ちの日でした。

その独立記念日の機中でのことです。隣り合わせた白人女性が、突然堰きを切ったように泣き出しました。たった今夫と別れてきた、まだ未練があるので泣きたいというのです。私はどう慰めてよいのかわかりません。終始、聞き役になって「これから前を見て、がんばろうね！」と、励ましました。私もこれから、クリーブランドは新天地です。それから、お互い別れを惜しみつつ、飛行機のタラップを降りました。クリーブランドの空港に着くと、いかにもドクター然とした方が出迎えてくれました。少し神経質そうな初老の紳士で、足の悪い奥様の世話をしていました。彼の家庭に招かれた時、庭の草花すべてに学名が書かれていたのが印象的でした。私の第二の研修先が、ここ州立のKingwood Center であり、彼が

私のBig ボスです。緑深いこの地が、新たな生活拠点となりました。

<地元市民や専門家と交流、ヨーロッパ旅行>

Kingwood Center は電力王Mr. King の持ち物でしたが子どもがいなかったので、すべての財産と3 万坪の土地を州に寄贈。さらに、彼らに尽くした2 人のメードの生涯生活保障を遺言に書き残している高德の人でした。私の生活は、2 人のメードに気に入られることから始まりました。センターは市民交流の場として一般公開され、野外コンサートなど様々なイベントが開催されておりました。私も研修の名目で、セミナーに参加したり、インフォメーションに立ったりして、多くの市民や専門家と交流することができました。後に、オレゴン州の会長・Sue Laszlo がこの地を訪れたと知り、深い縁を感じています。

オハイオ州の1 年の研修もあつという間に過ぎて、プログラムを終えました。ヨーロッパを回って帰国するか、ハワイにするかの選択で、ハワイはいつでも行けると思い、ヨーロッパ回りを選択。N.Yのケネデー空港から飛び立ち、三週間かけて、イギリス、オランダ、フランス、イタリアを巡る一人旅をしました。多くの人々に出会えたこの時の経験は、生涯の財産となりました。いつでも行けるはずだったハワイにはまだ、行けずじまいです。

<第二の人生へと再出発>

帰国後、同じ職場に復帰し、新しい生活が始まりました。そして、結婚し、出産後、仕事を続けようとしたが、今のような恵まれた労働環境はなく、法整備も不完全です。産前産後に1 カ月余りの産休を取った後、やむなく退職しました。

それから数年がたち、子どもたちも少しずつ手がかからなくなったころ、仕事への思いが募り新たな社会への再出発を迎えます。第二の人生の舞台は、急成長するベンチャー企業の海外部です。毎日45 カ国からテレックスが入り、大わらわの日々でした。当時はまだ、パーソナルコンピュータのはしりのころで、多くの若者が集まってきました。その中には、後にヤフー B B の社長となった井上氏がいました。さらにその後、100 年以上の歴史がある企業に転職。元職を生かしてバイオテクノロジーの担当となり、多くの企業の研究所長や筑波の国立研究所長に、最新情報を提供しました。

<P E・F E 試験と出会う>

5 年以上が過ぎた時、中立の立場でものがいえるようになりたいと思い、社団法人日本工業技術振興協会に入社いたしました。ここで P E・F E 試験に出会ったのです。

1994 年は、この米国の試験を日本に導入しようと、試行錯誤の毎日が続きました。いよいよ日本での試験を始めようとした時に、全米の大会でグアムが反対動議を提出。実施を阻む行動を起こしました。日本の参入が彼らの職場を奪う、と思ったのかも知れません。結局、日本での実施が先送りとなってしまいました。すでに、ポスターも刷り上がり会場も設定済みでしたので、大いに落胆をしておりましたら、日本に賛成票を入れてくれたオレゴン州の代表が、救済の手を差し伸べてくれました。このように紆余曲折を経てスタートをしたのが、オレゴン州主催の第1 回F E 試験（1994 年）でした。

現在はNCEES によるF E・P E 試験ですから、はや15 年の歳月が過ぎようとしています。このように私の人生も仕事もすべてハプニングの連続でしたが、情熱と気力を失わなければ、いつか希望に近づくものです。どうぞ皆様、このような**混沌とした現代だからこそ、夢と希望を持って進んでいただきたい。前向きな転職こそが、未来をひらく道**です。決して、後ろ向きにはならないでください。人生という舞台を一幕一場面で終わらせ

ないためにも、多くのチャンスに挑戦していただきたいと思います。（ただし、転職先を決めてから辞めることが肝要）多くの職場での出会いや経験、今も続く人々とのネットワークに感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

女性PE 大いに語る。

PE-0096望月 みずほ様 mimochizuki@ykh.chiyoda.co.jp

PE-0108 鈴木 律様 メールID : ritsu@rr.ij4u.or.jp

戸田様 メール ID : ashoda@ykh.chiyoda.co.jp